

ものづくり振興 厚労省など顕彰

今治タオル技能検定選定

ものづくり産業振興や技能者育成の特色ある取り組みを顕彰する初の「地域発／いいもの」(厚生労働省



など主催)に、今治タオル工業組合が2011年から行うタオル製造の社内技能検定が、全国のほか5件とともにこのほど選定された。タオル業界では全国初の試みで、業界が主体となって効率的に技能継承を図

今治タオル工業組合の技能検定でジャカード機のモジュールを交換する受検者(下) 2016年8月13日、今治市桜井団地4丁目

れる点などが評価された。10都県から20件の応募があり、獨創性、応用性、効果など6項目を審査した。同検定は「今治タオル」のブランド力を支える人材育成が狙い。00年に廃止された国家技能検定の内容に独自の評価制度を加え、行政、学校、技能士などの協力で11年に復活させた。年1回、織機調整やタオルを織る実技と学科試験を実施。これまでに1級22人(受

検者55人)、2級22人(同38人)が合格している。組合によると、検定で各メーカーの共通認識が生まれ、産地全体の技術力や技能者の社会的地位向上につながっているという。近藤聖司理事長は「会社個別の検定が多い中、業界としての取り組みが評価された。今治タオルブランドの価値の維持向上には人材育成が一番大事。タオルを織る準備工程の『整経』の検定制度構築も進めており、さらに足腰の強い産地を目指す」と話した。

(亀井咲希)